

区有施設における生物多様性保全に関する支援業務

1. 業務内容と目的

(1) 業務内容

区有施設である南長崎はらっぱ公園のビオトープにおいて、外来種駆除（アメリカザリガニの駆除）を行った。同時に今後の維持管理に活かすべく生態調査を行った。生態調査に関しては「令和7年度 豊島区動植物生態調査報告書」にまとめた。

(2) 目的と背景

アメリカザリガニは落葉、水草、水生生物、生物の死骸などを食べる雑食性である。繁殖力が強く、個体数が急激に増加することで他の動植物が捕食されて数を減らす、消失するなどの影響が懸念される。

全国的に分布を広げており、環境省及び農林水産省が作成・公表した生態系被害防止外来種リストで総合対策外来種の中の緊急対策外来種とされている。令和6年6月1日より条件付き特定外来生物にも指定されている。

南長崎はらっぱ公園のビオトープ池でも以下の影響が確認された。

- ・平成28年から29年の1年間で、水草のアサザが食害され消失した。（図IV-1-1）
- ・トンボ類の産卵行動は見られるものの、幼虫（ヤゴ）がほとんど確認されなくなった。
- ・平成29年度に植栽されたホテイアオイにアメリカザリガニのものと思われる食痕が見つかり、植えてもすぐに食べられてしまう状況であった。

アメリカザリガニは池の造成当初は生息していなかったが、何者かに移入されたものが数を殖やし、他の動植物に影響を与えるまでになった。

アメリカザリガニによる影響を減らし、地域の生物多様性を向上させることを目的に、平成29年度から駆除を開始した。



平成26年7月17日
水面にアサザが多く生育していた



平成29年7月12日
園芸のスイレン属の一種のみが残り、
アサザは消失した

図IV-1-1 南長崎はらっぱ公園のアサザの生育状況

2. 外来種駆除作業

(1) 業務の概要

1) 実施日

初夏に3回、駆除作業を行った。初夏はアメリカザリガニが繁殖期に差し掛かり、泥から出ていることが多く視認しやすい。また、9月にかけての繁殖前に個体数を減らすことも目的である。

1回目：令和7年6月13日

2回目：令和7年6月16日

3回目：令和7年7月1日

加えて、水生生物調査時に捕獲した個体の駆除と、区民団体の「南長崎はらっぱ公園を育てる会」による駆除も実施した。

2) 実施場所

南長崎はらっぱ公園は豊島プール（平成12年に老朽化のため廃止）の跡地である。地域住民参加のワークショップによる公園計画づくりが行われ、平成22年7月にオープンした。ビオトープは地域住民による区民協働により同年11月に造られた。

ビオトープ全体は約170㎡で、池は約40㎡である。水は井戸水が利用され、定期的に区民団体の「南長崎はらっぱ公園を育てる会」により補給されている。池の南東部にある島の北東側が最も深く、水深は約40cmあった。柔らかい泥が積もっており、10cmほど足が沈み込む状態であった。

3) 実施方法

①タモ網による捕獲

ザリガニが隠れ場として好む水際を中心に、タモ網で泥ごと掬って捕獲した。

②捕獲罟による捕獲

捕獲罟は2種類利用した（図IV-2-1）。異なるサイズと材質であるが、餌に誘引された魚やアメリカザリガニが一度入ると脱出しにくい構造になっており、捕獲の仕組みは同じである。アナゴカゴは池に常設し、「南長崎はらっぱ公園を育てる会」の活動日に中に入っている個体を捕獲した。



網製捕獲罟
(商品名：お魚キラー)



アナゴカゴ罟

図IV-2-1 捕獲罟

③釣り

「南長崎はらっぱ公園を育てる会」による駆除では、釣りによりアメリカザリガニを捕獲した。

4) 記録方法

アメリカザリガニの生息の実態を把握するため、雌雄と、体長（第一歩脚（ハサミ）、触角を除く）を記録した。5cm 未満の小サイズについては、小型個体では性差の判別が難しく未成熟と思われる点から、雌雄の判別を省略した。

(2) 実施結果

1) 作業日および捕獲数

3回の駆除作業と水生生物調査時、区民団体の活動日を合わせ、計25回実施した。捕獲数が0匹の場合は回数に含めていない。今年度の捕獲数は277匹、累計で2,881匹となった（表IV-2-1）。

表IV-2-1 アメリカザリガニ駆除数

捕獲日	捕獲数	累計	備考
2017年度	553	553	
2018年度	449	1,002	
2019年度	355	1,357	
2020年度	219	1,576	
2021年度	224	1,800	
2022年度	289	2,089	
2023年度	258	2,347	
2024年度	257	2,604	
2025/4/16	1		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/4/30	3		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/5/7	8		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/5/14	5		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/5/28	3		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/6/4	8		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/6/13	21		ザリガニ駆除（1回目）
2025/6/16	23		ザリガニ駆除（2回目）
2025/6/18	13		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/7/1	24		ザリガニ駆除（3回目）
2025/7/9	5		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/7/23	4		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/7/30	1		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/8/6	1		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/8/20	3		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/8/27	2		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/9/3	1		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/9/3	117		水生生物調査（1回目）
2025/9/10	6		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/9/17	3		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/9/24	3		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/10/8	2		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/10/22	3		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2025/10/29	2		南長崎はらっぱ公園を育てる会
2026/2/27	15		水生生物調査（2回目）
2025年度合計	277	2,881	

2) 分析

①方法別の捕獲数

専門家が捕獲した 200 匹について、捕獲方法別の個体数を示す（表Ⅳ-2-2）。

アナゴカゴ罟は池に常設しているものを駆除日に回収した。9 月 3 日のタモ網での捕獲は、成体の雌と、雌の腹にいた稚ザリガニを掬ったものである。

表Ⅳ-2-2 アメリカザリガニ捕獲方法別の捕獲個体数

捕獲日	タモ網	捕獲罟		計
		網	アナゴカゴ	
2025/6/13	10	4	7	21
2025/6/16	15	1	7	23
2025/7/1	8	14	2	24
2025/9/3	117	-	-	117
2026/2/27	15	-	-	15
計	165	19	16	200

②方法別の平均体長

専門家が捕獲した 200 匹について、捕獲方法別の平均体長を示す（表Ⅳ-2-3）。

全個体の平均体長は 2.8cm で、昨年 の 5.2cm と比較して小さくなった。

捕獲方法と個体サイズとの関連を見ると、タモ網は岸に追い込んで捕獲するため、隠れていた小さな個体が捕獲できる傾向にあった。捕獲罟では、餌を用い、食べに出てきた大きな個体を捕獲できる傾向にあった。

前述の通り 9 月 3 日については、9cm の雌を 1 匹、1cm 未満の稚ザリガニを 116 匹捕獲している。そのため平均体長としては押し下げられた結果となった。

表Ⅳ-2-3 アメリカザリガニ捕獲方法別の平均体長

捕獲日	タモ網	捕獲罟	平均体長(cm)
2025/6/13	6.1	8.1	6.6
2025/6/16	6.7	9.5	6.9
2025/7/1	7.2	8.5	8.0
2025/9/3	0.8	-	0.8
2026/2/27	2.8	-	2.8
平均体長(cm)	2.1	8.4	2.8

※アナゴカゴで捕獲した個体については計測していない。

③捕獲個体の性別

専門家が捕獲した、おおむね体長 5cm 以上の個体の雌雄を示す（表Ⅳ－2－4）。今年度は雌雄が同数であった。駆除効果との因果関係は不明だが、参考記録とする。

表Ⅳ－2－4 アメリカザリガニ捕獲個体の性別

捕獲日	♂	♀
2025/6/13	9	2
2025/6/16	7	6
2025/7/1	7	14
2025/9/3	-	1
2026/2/27	-	-
計	23	23

3) 区民協働

「南長崎はらっぱ公園を育てる会」の定例の活動日に駆除が行われた。捕獲数については表Ⅳ－2－1 に示した。

アメリカザリガニの被害を減らすためには、年間を通じた捕獲と同時に、ザリガニの隠れ場所を減らす、被害箇所を修復するといった環境管理作業が必要である。専門家による作業日数に限りがある中、日常的な駆除と管理作業により他の生きものが棲みやすい環境の保全と創出がなされていることは、このビオトープにとどまらず、ビオトープを拠点とした周辺地域の生物多様性の向上にもつながっている。

アメリカザリガニの個体数を減少させるため、今後も連携を取りながら駆除を進めていく。

4) 啓発サインの設置

アメリカザリガニ駆除の目的を示し、生きものを捨てないように啓発するためのサインを設置している。アメリカザリガニの駆除作業や動植物調査時に退色や破損の状況の点検を行った。今年度は 10 月に更新した（図Ⅳ－2－3）。



図Ⅳ－2－3 啓発サイン設置状況

3. 考察

(1) 今年度の成果

1) アメリカザリガニについて

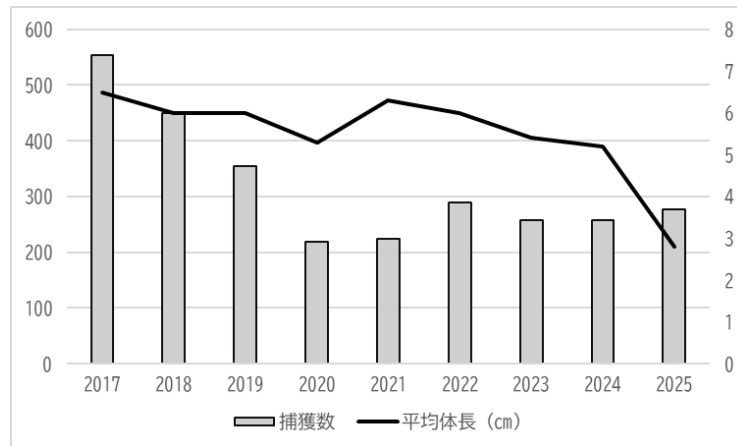
今年度で駆除を開始し 9 年目となる。捕獲数は 4 年かけて減少したものの、2020 年度に底をついて以降、年間 200 匹台で推移している。参考までに、これまでの捕獲数と捕獲したアメリカザリガニの平均体長を以下に示す（表IV-3-1）。

2020 年度は新型コロナウイルスの影響により、活動控えで捕獲圧が下がったため、捕獲数が少なかったと考えられる。2024 年度は例年より早い 9 月の時点で釣りによる捕獲が途絶えていた。今年度は大型個体が主に捕獲されつつも、捕獲ペースは低調であった。ただし 9 月に稚ザリガニがまとまって見つかったため、合計捕獲数としては引き続き 200 匹台となっている。

アメリカザリガニは 1 度の繁殖で 200~500 個ほど産卵すると言われている。これまで抱卵雌の確認ができていなかったが、今回、孵化直後の稚ザリガニを捕獲することができたことは成果といえる。

アメリカザリガニの成体は徐々に少なくなっているようであるが、繁殖は行われていることから、捕獲圧が下がれば容易に増加に転じてしまう。そのため取り組みの継続は重要である。加えてアメリカザリガニの低密度化に向けては、成体と幼体をバランスよく捕獲することが必要である。タモ網では体長が小さな個体を、釣りや罟では大きな個体を捕獲できる傾向にあり、今後も様々な方法を組み合わせて駆除を実施していく。

表IV-4-1 アメリカザリガニの捕獲数と平均体長の推移



2) ビオトープの生物相（「令和 7 年度 豊島区動植物生態調査報告書」参照）

今年度はシオカラトンボとシオカラトンボ属、コシアキトンボのヤゴが計 5 匹確認された。ヤゴの確認は 8 年連続となる。また、ベニイトトンボ（都 RL：VU）の成虫が 6 月 13 日と 16 日に確認された。別の場所で繁殖した個体が飛来したとみられ、自然の高い水辺を好む希少なトンボ類が記録されたことは評価される点である。

アズマヒキガエルについては、6 月 16 日に、池の下流側にある集水桝の中で 100 匹ほどの幼生（オタマジャクシ）を発見した。当該地での近年のアズマヒキガエル減少の一因として、池の給水によりオタマジャクシが集水桝に流れ込み、上陸できなかったためであることが判明した。発見したオタマジャクシは救出し、上流側に放流した。



図IV-4-1 オタマジャクシが発見された集水桝

(2) 今後の対策

アメリカザリガニを根絶または低密度に抑えるため、今後も様々な捕獲方法で駆除を続けていく。抱卵雌は夏から秋にかけて巣穴に潜って産卵する習性があるため、9月の水生生物調査時に、巣穴の確認および捕獲を併せて実施する。

アズマヒキガエルについては、集水桝を定期的にかけてオタマジャクシの救出を行うことが望ましい。現在、池の漏水に伴い水位が低下しやすくなっており、頻繁に高水位まで給水されていることで集水桝に水が流れ出やすくなっている。そのため、オタマジャクシの流出対策として集水桝に目の細かな網を設置することが考えられる。また根本的な対策として、アメリカザリガニによって空けられた穴を塞ぐ、防水シートを敷き直すといった修繕が望まれる。

池の造成から15年が経過し、ハード面の老朽化、周辺樹木の伸長や水の濁りといった環境変化も認められる。生物の状況とあわせて、ビオトープの状態がよりよいものとなるよう支援を行っていく。

(3) その他

6月にザリガニ駆除とあわせ、池のヨシやヒメガマの除草を行った。池の中での作業はボランティアの活動では難しい場面もある。今後も状況に応じ、保全作業への協力を継続していく。



作業実施前（令和7年6月13日）
南長崎はらっぱ公園



作業実施後（令和7年6月13日）
南長崎はらっぱ公園

図IV-4-2 管理作業の実施

保全目標

- ・かつて生育していたアサザが、再び継続して生育できること。
- ・トンボ類の羽化が安定して見られ、繁殖の場となること。
- ・アズマヒキガエルの幼生や幼体が確認できること。